

チカラミナギル本のカズカズ



## 『もうひとつの国鉄闘争 非正規差別、女性差別と闘って』

和田弘子 著/三一書房 2500円

近年、「官製ワーキングプア」が社会問題化されているが、公務現場での非正規労働問題は1950年代からある。旧国鉄は、正職員と同等の仕事に10～30年と長期間従事した労働者を、「臨時雇用員」として差別的処遇を続けた。87年の分割民営化に先駆けて、83年、全国で6000人（著者を含む）の臨時雇用員が「人件費削減は国家的使命」との理由で整理解雇された。分割民営化は中曽根元首相が国労と総評を潰すために確信犯として強行した国策だった。著者は、「不当解雇撤回」を求めて84年

一人で提訴。入社から解雇までの職場闘争、団体交渉、裁判、労働委員会等あらゆる場所を駆使して40年間も非正規差別の是正を訴え続けた。

本書は、著者がおんな労働組合（関西）や全国の仲間と連帯し、挑戦し続けた闘いの軌跡である。国鉄の構造的差別と労働運動の「本工主義」に切り込む闘いでもあった。

どんな差別も許さず、女性の労働権を確立するために体現した著者の生き方は見事である。（屋）



『日本軍に奪てこられた少女たち』